

教えて！
加藤先生



4年

【主題名】
みんなのためにできること
【教材名】
みんなのためにできること
(光文書院)

主題を通して考えたいこと

＜●勤労、公共の精神＞

●みんなのために働くことのよさについて考える中で、他律的に行うときの自分の心に気づかせる。周りから認めてもらったり、何度も働いたりすることで、自分が集団の役に立っていることがわかり、進んで働こうとする意欲が高まることを理解させる。



相談者・相談内容：児童の考えを深める授業



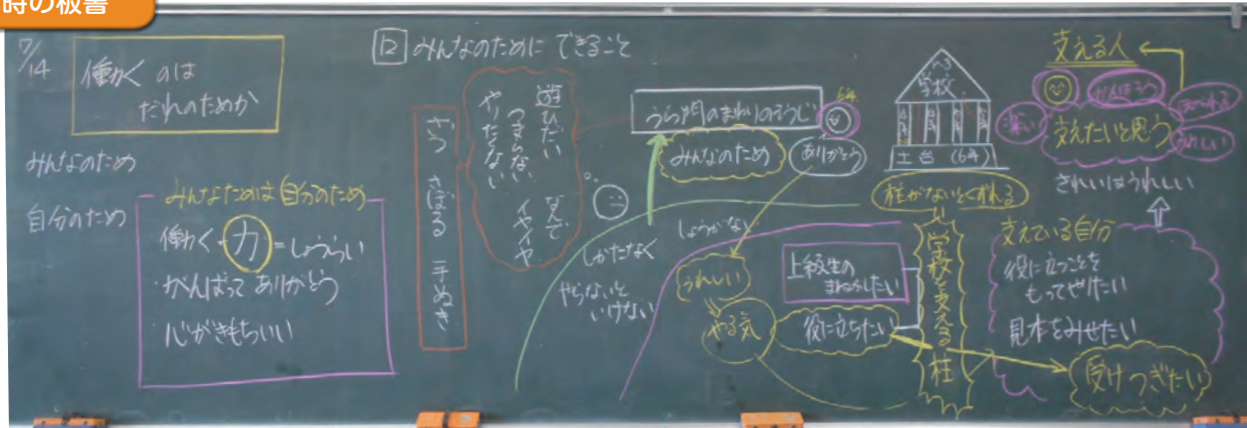
神奈川県相模原市立
淵野辺東小学校
風間 嘉裕 先生

「どうすれば子どもたちが考えようとするのか」について、『考える必然性』と『考えたいと思わせる刺激』が大切だと思っています。導入では前時を生かしたり、他教科との関連を図ったり、展開では問い返して「なぜ?」と思わせたり、グループで話し合わせたりとさまざまな手立てを行っています。児童が、考えさせられるのではなく、考えたいと思える授業にするためのポイントを教えてください。

本時の展開

学習活動	手立て
<ul style="list-style-type: none"> ○前時で考えた「働くのはだれのためか」について想起し、学習課題をもつ。 ○教材を読んで、思ったことや考えたことを発表し合う。 ○登場人物の掃除をする前と後と比較し、自分から進んでみんなのために働くことのよさについて考えを深める。 ○もう一度「働くのはだれのためか」を考え、初めの考えとの変容に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時に学習した後の考えを事前に確認し、働くことについての迷いを紹介する。そして、教材を読む視点をもたせる。 ●まずは自分の考えをもち、そこから学習課題を設定したり、教材の内容を整理したりする。 ●最初は他律的に活動していた登場人物が、活動を続けていくうちに自律的になっている変化について、多面的・多角的に考えるようにする。 ●「みんなのためだからやらなくては」という気持ちで働くことは、負担になるのではないかという問い返しを行い、さらに働くことのよさについて考えを深める。 ●これまでの学習をもとに、「働くのはだれのためなのか」をもう一度自分自身で考え、それを板書する。

本時の板書



授業で工夫した点

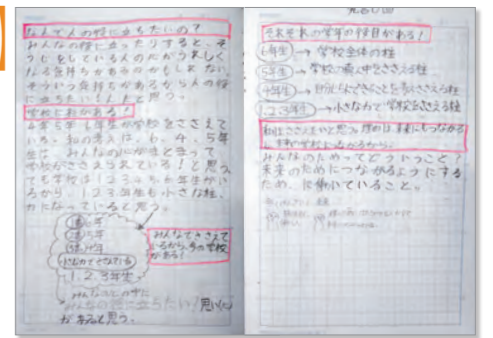
- 1 導入と終末を同じ位置に板書し、考えの変容が一目でわかるようにする。
テーマ発問「働くのはだれのためか」について、導入では前時で考えたことを、終末では「みんなのために働くことが自分のためになる」という学習のまとめを板書した。
- 2 子どもたちの考えを共有できるように、児童の言葉を生かした。「4年生は学校を支える柱」「柱がないと崩れてしまう」「6年生はすべての土台だ」という児童の考えを生かし、わかりやすく絵に表した。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T:「働くのはだれのため」でしょう。
C:それって、先週考えたよね。
C:みんなのため。
C:自分のため。
C:どっちもあると思うけど。割合が違う。
T:今日は、働くのはだれのためか、さらに考えよう。
(教材範読後)
C:どうして「ぼく」の気持ちは変わったんだろう?
T:そうだね。最初、掃除をするときの気持ちと、1か月後の気持ちはどうして変わったのでしょうか?
C:最初は決められたから仕方なくやっていたよ。
C:遊びたいとか、嫌々やっていた。
C:でも、掃除をしていて、みんなから褒められて、うれしいからやる気が出たんじゃないかな。
C:上級生になったから、みんなの役に立ちたいという気持ちが大きくなった。
C:6年生みたいになりたいから、6年生の真似をしようと思ったんじゃないかな。
C:うちの学校の6年生も、校門であいさつしたり、掃除したり、みんなのためにやってる。
C:4年生だって、学校を支えていると思う。
C:ぼくらだって、学校を支える柱だよ。
T:なるほど。みんなのために働くことは、みんなを支えることになるんだね。
C:4年生は柱だけど、6年生は土台だね。
C:みんなのために支えている4年生も、6年生は支えてくれているんだ。
C:そういうことは受け継いでいきたいな。
T:みんなは、学校のだれかを支えていると思って働いているんだね。
C:だから、もっとみんなの役に立ちたいって思う。
C:みんなのお手本になろうってがんばれる。
T:みんなのことをもっと支えたいと思って働いている人はどんな人になれるかな。
C:支えたいという気持ちが大きくなって、本当の支えられる人になれる。
T:最後に、働くのはだれのためかほかに考えられることはありますか。
C:みんなのためは自分のためになる。
C:働くことは自分の力になっていく。

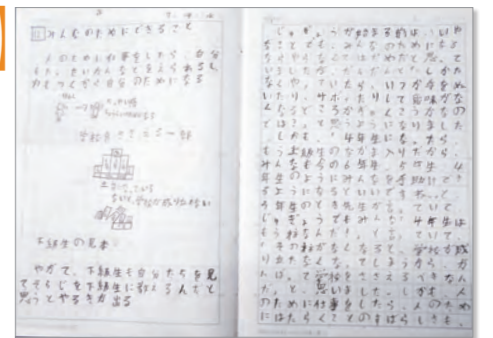
子どもの反応

【A児のふり返り】



- 働くことは人の役に立つことであるという価値の構造を客観的にとらえ、自分の考えとしてまとめることができている。
- また、学校生活での「働く」ということを自分事としてまとめていることも、これからの実践意欲につながっている。

【B児のふり返り】



- 授業では、ただ板書をノートに写すのではなく、自分で大切だと思うところをメモしている。
- また、働くことのよさについて、関連する「よりよい学校生活」の観点からも、多面的・多角的に考えることができている。

ここはナイス！
意識の流れを大切にしている点



本授業のナイスなところは、風間先生が子どもたちの意識の流れを大切にしながら授業を構想されているところです。それは、授業前の「働く」ことに対する価値観、授業中の「何のために働くのか」というおおもとの心の気づき、そして授業後の自分たちの「働く姿」を押さえるという流れとして伝わってきます。子どもたちはきっと、4年生の自分たちができる「働き」について、前向きな視点をもって、これからの学校生活を送っていくことでしょう。その関連で、愛校心・伝統の継承といった価値観に言及できているところも素敵です。

わたしならこうする！
シンプルかつ明快な板書



板書の工夫をし、登場人物の「働く」前後の意識を図式化して考えさせているところがわかりやすいですね。せっかくそのような工夫をするのですから、もっとわかりやすく明快な板書にしてはどうでしょう。
例えば、「はじめ」と「あと」の「掃除の仕方」を左右に対比して書き、「みんなにつられてなんとなく」から「やりがいを感じて前向きに」という意識の変容を押さえます。そして、「そのように意識を変えたものは何か、つまり「変容を生んだもの」を、子どもたちの言葉を使って明示するのです。シンプルかつ明快な板書を心がけることで、考えるポイントが明確になり、子どもたちを自ら考えたいと思う主体にすることができると思います。